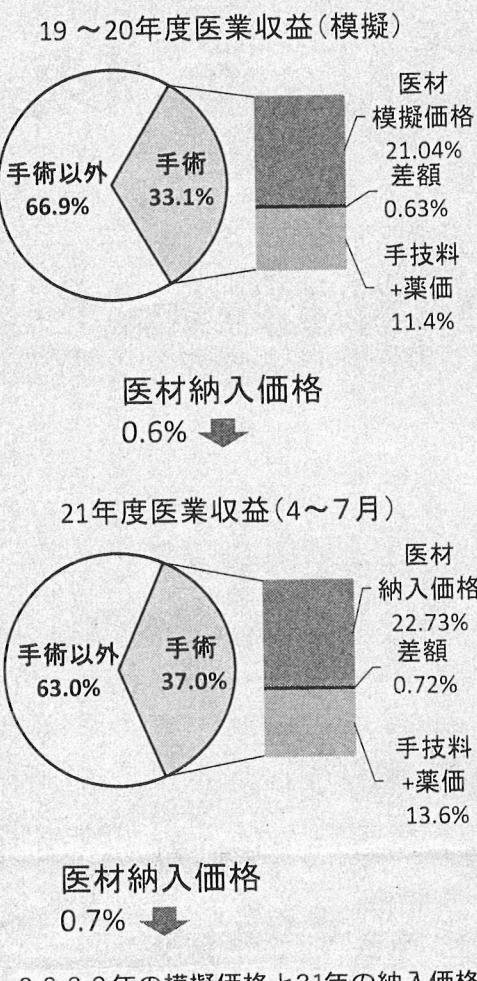


## 札幌白石記念

# 手術の医療材料費削減へ

## 視覚ツールでコスト意識醸成



2020年の模擬価格と21年の納入価格

自白区の札幌白石記念病院(野中雅理事長、宮田節也院長・103床)は、外科手術などに使用する医療材料費の見直しに着手。視覚ツールの開発を契機に、スタッフにコスト意識が芽生え、メーラーによる委員会を立ち上げ、2020年8月からコスト管理を見直すプロジェクトをスタート。

医療材料費は、マイナス収支のまま経過してきた。傍ら、市販のデータベース、ソフトウェアと医事システムを連携させ、経営陣や担当医師が常時、医療材料の購入時期や種類、個数、保険償還額、定価、納入価格を、医師別、診療科別、手技別などに分けて簡単に閲覧できる視覚ツールを開発したという。

さらに、医療材料費に関する情報を視覚化したことにより、医師や医事課の職員、手術に関わるスタッフの意識も大きく変わった。そこで、医師や医事課の職員、手術に関わるスタッフの意識も大きく変わった。そこで、医師や医事課の職員、手術に関わるスタッフの意識も大きく変わった。

新価格となつた21年4月以降の納入額は、0.7%減と概ねシミュレーション通りに推移。委員会メンバーの田村豊情報管理室長は、「今後はグラフを用いて見やすくするなど視覚ツールに改良を重ね、一人一人のコスト意識をさらに高めていければ」と意気込んでいる。

した。

交渉で値引きできた新納入価格を模擬価格としたところ、納入額は約0.6%ダウンし、利益が約2500万円増加。

効果をシミュレーション

し、20年度のコスト削減

したところ、納入額は約

0.6%ダウンし、利益

が約2500万円増加。